



て排除することで、肉体の動きそのものを抽象化し、昇華させてきた彼が、なぜ今、この2作品を取り上げるのか。ロックは言う。

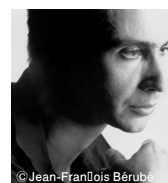
「この2作品はたとえバレエを観たことがない人でも知っているでしょう。そこにはなんらかの記憶がある。その記憶が『Amjad』に新たなテンションを与えるのです」

『Amjad』は、2作品のストーリーをなぞらえてはいない。次々と編成を変え展開されるシーンはそれぞれが一編の詩のように美しく抽象化されたイメージなのだが、ここに観る者各々の奥深く眠る“記憶”が重なるとき、ストーリーを超え果てしない広がりを見せるのだ。4人のミュージシャンによるライブ演奏の中、男女9人のダンサーは高速で回転し、空に放たれ、足を突き動かす。そして、女性ダンサーと男性ダンサーがポアントで踊る(!)パ・ド・トゥの美しさ。クラシックをモチーフにしているとは言え、ロックの振付けはやはり革新的で過激だ。それでもチャ

イコフスキーをアレンジした音楽に不思議と調和し、あたかもそれが当時のオリジナルであってもおかしくないとさえ感じてしまう。

「ロマンティック・バレエの頃、本当はどんなふうに踊られていたかなんて、なんの資料も残っていないのです。だから、私の振付けもそう遠いものではないかもしれない。男性ダンサーがポアントで今まで踊らなかったのだから、そういう訓練を慣例として子供の頃からやってこなかっただけ。してはいけないということはないでしょう?」

いつも軽々と固定概念を打ち破る、エドゥアール・ロック。『Amjad』はその彼が導いた新たなる美の地平だ。



profile

エドゥアール・ロック

／ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップス

振付家、ダンサー、映像作家であるエドゥアール・ロックは、1954年モロッコのカサブランカに生まれ、カナダ・モントリオールで育つ。大学で中世英文学を学ぶかたわら、19歳でダンスを始め、レ・グラン・バレエ・カナディアン、グループ・ヌーヴェル・エール等に参加。80年にラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップスの前身となったロック・ダンサーズを結成。『ヒューマン・セックス』(85)でベッシー賞を受賞。鋭い感覚と爆発的エネルギーで世界のダンス界に衝撃を与え、以降、世界のダンス・シーンで常に注目の的となってきた。代表作『アンファン』、『2』、『アメリカ』では世界ツアーを敢行、大きな話題を呼んだ。ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップスとしての活動に加え、パリ・オペラ座バレエ、NDT、オランダ国立バレエ団への振付け、デヴィッド・ボウイ、フランク・ザッパのコンサートの演出など、その活動は幅広い。

◆◆◆ DANCE ◆◆◆

ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップス 『Amjad アムジャッド』

【日時】7月4日(金) 開演 19:30 5日(土) 開演 18:00 6日(日) 開演 16:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『Amjad アムジャッド』(2007年初演) 【振付】エドゥアール・ロック

【音楽】ギャヴィン・プライヤーズ デヴィッド・ラング ブレイク・ハルグリーヴズ

【出演】ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップス ダンサー9名

【チケット(税込)】一般:S席7,000円/A席5,000円/学生A席3,000円 メンバース:S席6,300円/A席4,500円

【発売日】一般:4月12日(土) メンバース:4月5日(土)